

梅若会別会能

能江口

角当 直隆

土田 英貴
鷹尾 雄紀



狂言 宗

論 野村 萬斎

内藤 連
野村 裕基

能邯

鄂

松山 隆之
松山 結美



二〇一九年三月十七日(日)
午前十一時開演(十時開場)

梅若能楽学院会館

正面指定席 一〇、〇〇〇円
正面横指定席 九、〇〇〇円
中・脇正面自由席 八、〇〇〇円
中・脇正面学生席 四、〇〇〇円

能 江

仕舞 龍敦 盛キリ 伶以野陽子 坂東 愛子
 鷹尾 雄紀 田キリ 三吉 徹子 井上 貴美子
 土田 英貴 須磨源氏 山村 庸子 高橋 栄子
 角当 直隆 福王 和幸 亀井 忠雄 富田 雅子
 村瀬 提 飯田 清一 杉 信太郎
 福瀬 幸 山崎 美歩
 間 深田 博治 地謡 野崎 美歩

狂言

宗 論

《休憩十五分予定》
 後見 梅若長左衛門 地謡 川口 幸雄 鷹尾 晃平 梅尾 維教
 角当 行雄 内藤 連 山崎 正道

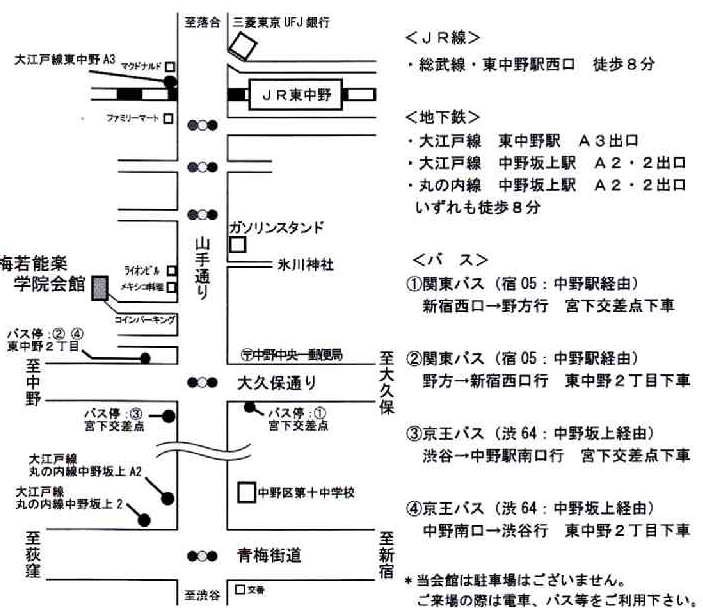
能 邯

仕舞 弓通夕國 八 幡盛顔 山中 遼晶 山崎 景晶
 松山 結美 松山 隆之 梅若長左衛門 角当 行雄 鷹尾 章弘 小田切亮磨
 工藤 和哉 殿田 謙吉 高井 松男 大日方 祐一 御厨 誠吾
 柿原 弘和 大倉源次郎 竹市 典良
 間 高野 和憲 地謡 井上 田崎 燎英友 治貴正 山中 梅若 小井 上切 返紀 彰陽
 後見 赤瀬 隆雄 地謡 井上 田崎 燎英友 治貴正 山中 梅若 小井 上切 返紀 彰陽

後見 赤瀬 隆雄 地謡 井上 田崎 燎英友 治貴正 山中 梅若 小井 上切 返紀 彰陽

『江口』くぐちち旅の僧が天王寺参詣の途中、昔多くの遊女がいた撰津の江口の里に来る。僧はかつて西行法師が一夜の宿を求めたが断られたことを詠んだ歌を思い出して口ずさむ。すると若い里女が「一夜の宿を惜しんだのではなく、遊女の宿に世捨人が泊まるのはどうかと思つた」と話し、自分がそのときの遊女の霊だと明して消えてしまふ。僧が遊女の霊を弔うため読経していると、川面に遊女達の乗る屋形船が現れ、嘆きの歌声で舞を舞う。迷いはこの世に心を残しているからであると思悟る、すると突然船は白象に、遊女は普賢菩薩となり遙か西の空へと消えていく。

『邯鄲』くかんたんく唐土、蜀の国の青年盧生くろせいくは人生に悩み、楚国の羊飛山に住む高僧に教えを乞いに旅に出る。旅の途中の邯鄲の里で兩宿りをすると、宿の女主人から将来を知る事ができるという邯鄲の枕を勧められ、盧生はその枕で昼寝をする。盧生が眠りにつくと突然楚国の勅使に起こされ、勅使から楚国の帝位を盧生に譲るといふ勅諭を聞く。盧生は興に乗り、自分をたたえる民の声のなか光り輝く宮殿に着く。やがて盧生が帝位について五十年が過ぎ、即位五十年の酒宴で舞童とともに盧生も舞を舞う。しかし栗のご飯を召し上げられという声に盧生が目覚め、栗飯を一炊する間の女主人の声だつた。そこで盧生は今までの百年の栄華も栗飯を一炊する間のわずかな出来事であつたと気付く。盧生は今までの迷いから離れることができ、悟りをひらくことができた事を邯鄲の枕に感謝をすると、高僧の住む羊飛山には向かわず故郷へと帰つて行く。



〒164-0003 東京都中野区東中野 2-6-14
 公益財団法人 梅若会 (梅若能楽学院会館)
 TEL: 03-3363-7748 FAX: 03-3363-7749

【観能チケットについて】

- 正面指定席 10,000円・正面横指定席 9,000円・中脇正面自由席 8,000円・中脇正面学生席 4,000円
 - チケットはお電話、またはファクスにて郵便番号、ご住所、お名前、ご連絡先電話番号、ご希望席種をお書きの上お申し込み下さい。(TEL 03-3363-7748 FAX 03-3363-7749)
 なお梅若会ブログからメールにて受け付けております。(http://umewakanoh.exblog.jp/) 詳しくはお電話にてお問い合わせ頂くか、下記QRコードから梅若会ブログをご覧下さい。
 - 梅若会賛助券および準賛助券はご利用できません。別途チケットをお求め下さい。
 - 都合により出演者、曲目に変更がある場合がございます。
- *ロビーにて軽食、コーヒー等の販売がございます。皆様ご利用下さい。

文化庁
 文化庁文化芸術振興費補助金
 (舞台芸術創造活動活性化事業)
 独立行政法人日本芸術文化振興会